

カナダの金融市場動向 Weekly Report

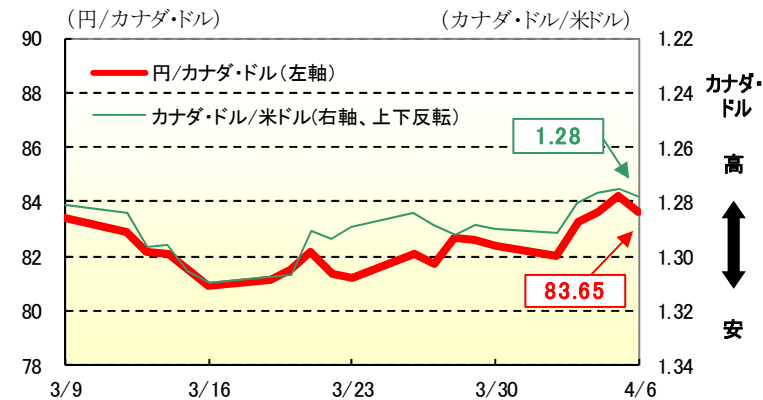
【2018年3月31日～2018年4月6日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円やカナダ5年国債利回りは上昇しました。

先週は、NAFTA(北米自由貿易協定)再交渉について、今週開催される米州首脳会議において暫定合意が発表される可能性があることと報じられたことなどが、カナダの金利やカナダ・ドルの上昇要因となりました。また、カナダで雇用統計が発表され、雇用者数は市場予想を上回る増加となり、失業率も前月と同水準の堅調な結果となりました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年3月9日～2018年4月6日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

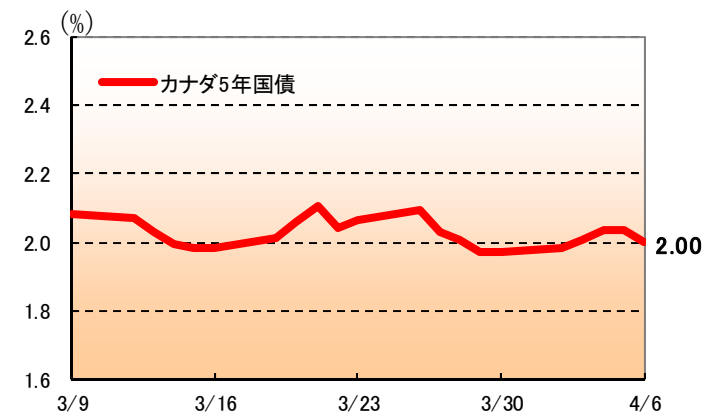
【2】今週の見通し

今週、カナダでは特段重要な経済指標の発表はありませんが、ペルーで米州首脳会議が開催されることから、NAFTA再交渉について何らかの進展があるのではと市場の注目が集まっています。

また、米国でCPI(消費者物価指数)が発表されます。堅調な結果となれば利上げ期待が高まり米国金利が上昇することで、カナダの金利もそれに連れて上昇圧力が高まるとみえています。

一方、足元で米国と中国の通商関係の緊張が高まっています。今後さらに米国が保護主義的な政策を進め、他国との緊張が高まった場合には、市場のリスク回避的な姿勢が強まりやすいとみえています。

【カナダ 金利推移】 (2018年3月9日～2018年4月6日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>